

令和3年12月期 第2四半期 決算説明資料

(令和3年1月1日～令和3年6月30日)

令和3年8月11日
株式会社トーア紡コーポレーション
東京証券取引所 市場第一部
証券コード：3204

目次

1. 令和3年12月期 第2四半期 実績	P. 3 ~ 13
2. アフター（ウィズ）コロナの事業環境	P. 14
3. 令和3年12月期 通期業績予想	P. 15 ~ 16
4. トピックス	P. 17

連結決算概要

TOABO

100周年に向かうトーア紡グループ

(金額：百万円)	第 2 四 半 期 累 計			前年同期比 増減率
	令和元年12月期	令和 2 年12月期	令和 3 年12月期	
売 上 高	9,413	7,307	7,370	0.9%
営 業 利 益	182	94	205	117.3%
営 業 利 益 率	1.9%	1.3%	2.8%	1.5ポイント
経 常 利 益	145	94	220	133.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	52	102	111	9.0%

新型コロナウイルスの影響は続き、また半導体調達難の影響もあり売上回復せず
生産の効率化とコスト削減により、営業利益は回復傾向

セグメント別業績

TOABO

100周年に向かうトア紡グループ

(金額：百万円)	第 2 四 半 期 累 計									前年同期比増減率		
	令和元年12月期			令和 2 年12月期			令和 3 年12月期					
	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率
衣 料 事 業	3,850	106	0.4%	2,704	12	0.5%	2,413	65	2.7%	△10.8%	427.3%	2.2ポイント
インテリア 産業資材事業	3,571	17	3.0%	2,767	△9	—	2,847	66	2.3%	2.9%	—	—
エレクトロ ニクス事業	867	1	0.2%	726	△1	—	1,064	18	1.7%	46.5%	—	—
フ ァ イ ン ケミカル事業	617	88	14.4%	544	40	7.4%	434	11	2.5%	△20.2%	△72.3%	△4.9ポイント
不動産事業	369	226	61.3%	415	272	65.6%	441	275	62.3%	6.3%	0.8%	△3.3ポイント
そ の 他	137	△28	—	148	△4	—	168	△3	—	13.8%	—	—
調 整 額 (販 管 費 等)	—	△230	—	—	△215	—	—	△227	—	—	—	—
合 計	9,413	182	1.9%	7,307	94	1.3%	7,370	205	2.8%	0.9%	117.3%	1.5ポイント

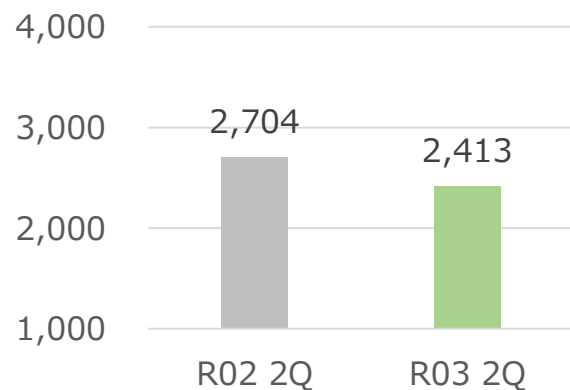
衣料事業

TOABO

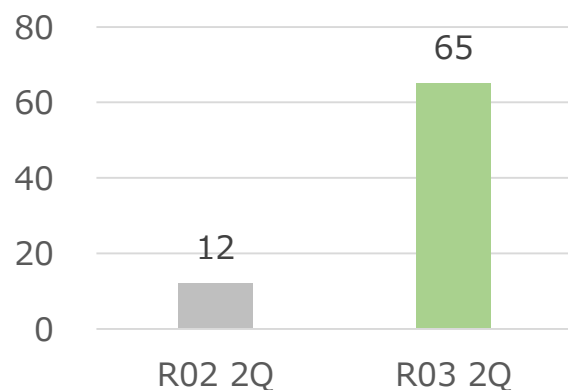
100周年に向かうトーア紡グループ

(単位：百万円)

売上高



営業利益



売上高	2,413百万円	10.8%減
営業利益	65百万円	427.3%増
営業利益率	2.7%	2.2ポイント増

業績概要

▶ 毛糸部門

市況の冷え込みの長期化により、セーター向けニット糸および一般スーツ向け織糸の受注が落ち込み減収

▶ ユニフォーム部門

スクール向けは新規案件、来春向け既存案件ともに受注が堅調で増収増益

官公庁向けは特需案件の受注により増収

一般企業向けは需要低迷により、新規および追加受注が低調で減収

▶ テキスタイル部門

度重なる緊急事態宣言や郊外量販店の店舗閉鎖・売り場面積縮小、商談の延期や停止などの影響を受け大幅減収

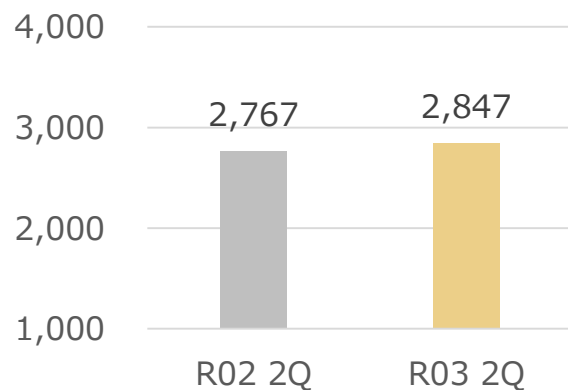
インテリア産業資材事業

TOABO

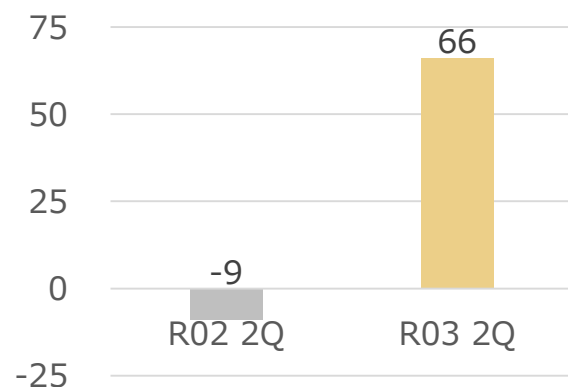
100周年に向かうトーア紡グループ

(単位：百万円)

売上高



営業利益



売上高 2,847百万円 2.9%増

営業利益 66百万円 前年同期は営業損失9百万円

営業利益率 2.3% 前年同期は利益なし

業績概要

- ▶ ポリプロファイバー部門
自動車内装材用原綿の需要は堅調、カーペット用原綿も展示会が規模を縮小して開催されていることに加え、オリンピック関連需要もあり増収増益
- ▶ カーペット部門
ホテル、オフィス、ダストコントロール用途の需要が減少
生産効率の改善により減収増益
- ▶ 特殊繊維部門
前年並みの生産数量に戻り微増収増益
- ▶ 自動車内装材部門
半導体不足の影響は出るも生産は回復し微増収増益
- ▶ 不織布部門
寝装関係が前年並みに推移するも、緑化資材・防草資材、土木関連が若干落ち込み減収増益

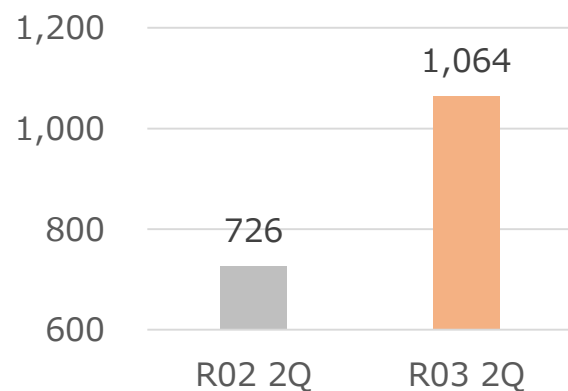
エレクトロニクス事業

TOABO

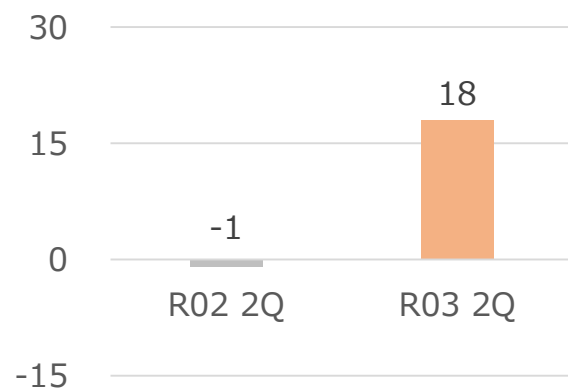
100周年に向かうトーア紡グループ

(単位：百万円)

売上高



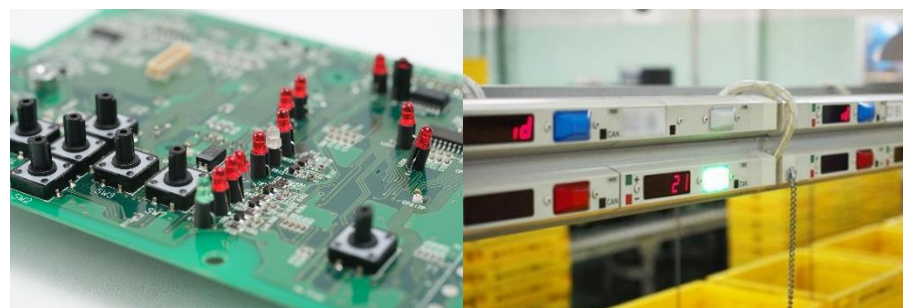
営業利益



売上高	1,064百万円	46.5%増
営業利益	18百万円	前年同期は 営業損失1百万円
営業利益率	1.7%	前年同期は利益なし

業績概要

- ▶ 巣ごもり需要による主力の電動工具向けコントローラーの大幅な受注増により増収増益となるも、生産部材の確保および原材料や人件費の高騰への対応が課題
- ▶ パワー用電子デバイスの受注は堅調に推移



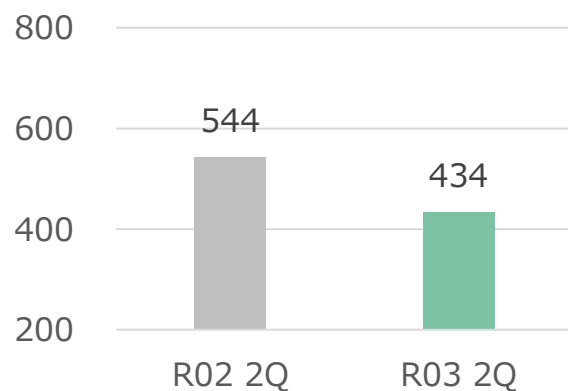
ファインケミカル事業

TOABO

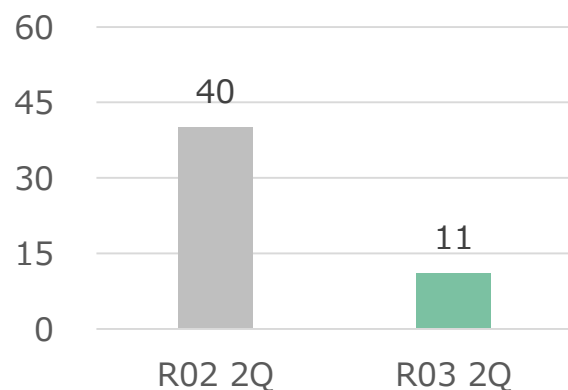
100周年に向かうトーア紡グループ

(単位：百万円)

売上高



営業利益



売上高	434百万円	20.2%減
営業利益	11百万円	72.3%減
営業利益率	2.5%	4.9ポイント減

業績概要

- ▶ ジェネリック医薬品原体、医薬部外品原体、化粧品用紫外線吸収剤などヘルスケア分野は医療機関の診察制限・自粛や価格競争の影響なども重なり受注が減少
- ▶ 電子材料分野の機能性ポリマー原料は、5Gスマホやフォルダブル端末向けの需要増で堅調に推移したが、世界的に供給が逼迫している半導体ウェハー周辺部材や半導体製造装置の洗浄用薬剤の受注が低迷し、ファインケミカル事業全体で減収



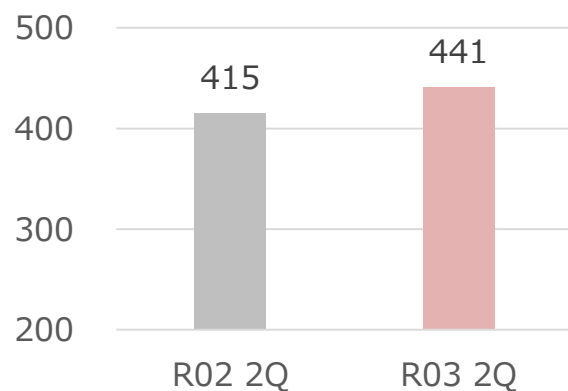
不動産事業

TOABO

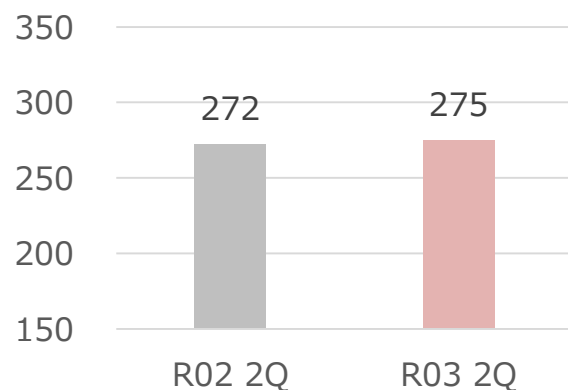
100周年に向かうトーア紡グループ

(単位：百万円)

売上高



営業利益



売上高	441百万円	6.3%増
営業利益	275百万円	0.8%増
営業利益率	62.3%	3.3ポイント減

業績概要

- ▶ ショッピングセンターの賃貸収入の増加に伴い増収
大型ショッピングセンターの契約スキーム変更と、ロードサイド一部テナント撤退により営業利益は微増益
- ▶ 佐賀県のゴルフ練習場は、お客様と従業員の感染防止に努め、幅広い年代、特に若年層の来場が増え、増収増益



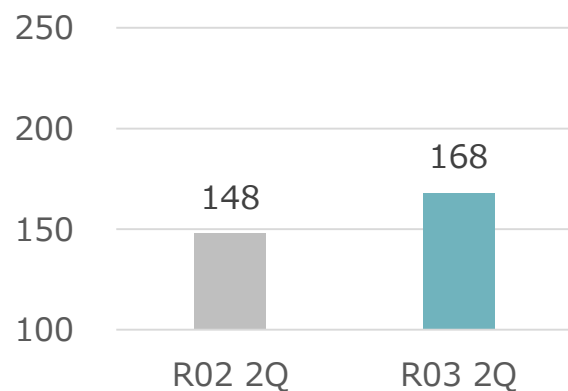
その他の事業

TOABO

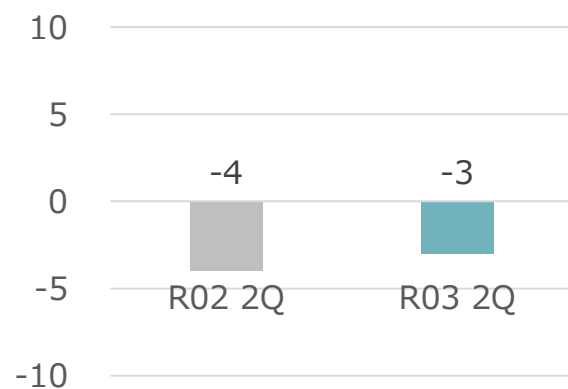
100周年に向かうトア紡グループ

(単位：百万円)

売上高



営業利益



売上高 168百万円 13.8%増

営業損失 3百万円 前年同期は営業損失4百万円

営業利益率 — 前年同期も利益なし

業績概要

▶ 自動車教習事業

積極的な入校生の募集活動の結果、特に二輪車が好調に推移し増収

▶ ヘルスケア事業

東南アジアの港湾免税店での自社ブランド化粧品販売が新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響で先送り
国内でも対面販売方式の化粧品が低調



新型コロナウイルス感染拡大による 当社事業への影響まとめ

TOABO

100周年に向かうトーア紡グループ

事業部	当第2四半期までの主な影響
衣料事業	テレワークの一般化や、郊外量販店の店舗縮小、百貨店などの一時休業等により、スーツやニット製品など重衣料販売が大幅に落ち込み、毛糸、テキスタイルの売上が激減 中国子会社でも、日本向け市況の冷え込みにより大幅減収
インテリア産業資材事業	自動車関係では、国内・中国現地法人ともにコロナよりも半導体の調達不足による影響が大きく出ている 展示会が徐々に増えており、カーペットおよびカーペット用ポリプロ原綿の販売が戻りつつある OEM関係はまだまだ生産が少ない状況が続く
エレクトロニクス事業	電動工具の売れ行き好調によるコントローラーの売上げ増、 産業機器の需要回復によるパワー半導体の売上げ増、 家電売れ行き好調によるセンサーや関連商材の売上げ増により前年対比増収、増益
ファインケミカル事業	医療現場の環境変化（診察制限や通院自粛など）の影響で、医薬向けが低迷 オフィス関連素材は回復基調にあるものの、いまだコロナ前の水準には戻らず リモートワークや巣ごもり需要の拡大で、情報電子材料向けの受注は堅調
不動産事業	引き続きオフィス需要の減退（面積の見直し、コスト削減による解約）が継続 オフィス需要は弱含みの傾向が続き、当社所有のオフィスビルへの入居内覧は減少 ゴルフ練習場は、コロナ禍での屋外のスポーツが見直されたため、来場者が増え増収
その他事業	外出減により化粧品の需要が減退し、化粧品原料の売上が減少 海外港湾免税店での化粧品販売が延期 厚労省向け医療エプロンは在庫増でリピート無し

連結貸借対照表 サマリー

(金額：百万円)

連結貸借対照表	令和2年12月	令和3年6月	増減
流動資産	9,533	10,313	780
固定資産	21,715	21,729	14
資産合計	31,248	32,043	794
流動負債	7,178	7,527	349
固定負債	13,247	13,435	187
負債合計	20,425	20,962	537
株主資本	10,363	10,386	22
その他包括利益累計額	450	689	238
非支配株主持分	8	4	△3
純資産合計	10,822	11,080	257
負債・純資産合計	31,248	32,043	794
(自己資本比率)	34.6%	34.6%	△0.0%

連結キャッシュフロー サマリー

(金額：百万円)	令和2年6月累計	令和3年6月累計	
純利益	168	215	<u>営業キャッシュフロー</u> 主な増加要因： 仕入債務の増加 347百万円 主な減少要因： 売上債権の増加 846百万円 たな卸資産の増加 64百万円
減価償却費	179	174	
運転資金	△1,035	△563	
その他	△608	△134	
営業CF	△1,296	△308	
設備投資	△207	△104	<u>投資キャッシュフロー</u> 主な減少要因： 有形固定資産の取得による支出 98百万円
その他	234	20	
投資CF	27	△84	
長・短期借入金増減	2,213	276	<u>財務キャッシュフロー</u> 主な増加要因： 長期借入による収入 2,220百万円 主な減少要因： 長期借入金の返済による支出 1,972百万円 配当金の支払 88百万円
社債増減	△100	△50	
配当金	△177	△88	
その他	△1	△1	
財務CF	1,935	137	
CF増減	656	△229	

アフター（ウィズ）コロナの事業環境

事業部	事業環境
衣料事業	巣ごもり消費に対応した、快適素材や抗菌・抗ウイルス素材への引き合いが増加 ファッション衣料は引き続き低調ではあるが、底打ち感とともにサステナブル素材を 中心に差別化素材は回復の兆し
インテリア 産業資材事業	在宅時間の増加により、身近なインテリア用品の需要が増加 抗菌・抗ウイルス機能が注目され、販売チャンスが出て来る 土木関連では、職人の手配がつけやすくなり発注増に繋がる
エレクトロ ニクス事業	半導体関連は引き続き好調で増収の見込み 課題は、①中国協力工場の生産能力増強、②生産部材の確保、 ③部材価格と人件費上昇分の値上げ交渉、となる
ファイン ケミカル事業	グローバルサプライチェーン再構築の潮流は、バルク生産の国内回帰を促し、 電子材料向けや医薬農薬中間体などの新たな受託案件増加が見込まれる
不動産事業	オフィスの分散化、フリーアドレスなどによる新しいワークスタイルの浸透により 中規模オフィスビルへの需要の高まりが期待できる
その他事業	化粧品は、アスリート・クリニック向けなど用途別に商品化することで差別化を図る 自然・天然志向で注目されているフコイダン原料とサプリメント販売を強化

令和3年12月期 業績予想概要

(金額：百万円)	令和元年12月期 実績	令和2年12月期 実績	令和3年12月期 予想	前年同期比 増減率
売上高	18,669	14,752	15,000	1.7%
営業利益	390	270	350	29.4%
営業利益率	2.1%	1.8%	2.3%	0.5ポイント
経常利益	351	297	300	1.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	165	184	170	△7.7%

令和3年12月期は微増収、営業利益は増益の予想

セグメント別業績予想

TOABO

100周年に向かうトア紡グループ

(金額：百万円)	実績			予想			前年同期比増減率		
	令和2年12月期			令和3年12月期					
	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率
衣料事業	5,349	68	1.3%	5,000	65	1.3%	△6.5%	△4.4%	0.0ポイント
インテリア 産業資材事業	5,608	19	0.4%	5,800	110	1.9%	3.4%	479.0%	1.6ポイント
エレクトロ ニクス事業	1,617	9	0.6%	2,040	50	2.5%	26.2%	455.6%	1.9ポイント
ファイン ケミカル事業	980	61	6.3%	940	48	5.1%	△4.1%	△21.3%	△1.1ポイント
不動産事業	848	530	62.5%	870	527	60.6%	2.6%	△0.6%	△1.9ポイント
その他	348	△7	—	350	0	—	0.6%	—	—
調整額 (販管費等)	—	△411	—	—	△450	—	—	—	—
合計	14,752	270	1.8%	15,000	350	2.3%	1.7%	29.6%	0.5ポイント

▶トーア紡コーポレーション / 「super wool by Anna Ortiz」販売開始

トーア紡コーポレーションは、高機能で快適なホームウェアブランド「**super wool by Anna Ortiz**」の販売をSWAO official サイト（<https://swao-official.com/>）内のECを中心に開始しました。

当ブランドの商品はウールを用い、冬暖かく、夏涼しい快適性を持ちながら、家庭での洗濯も可能となっています。また、ウールは天然繊維で土に還すことができるため、サステナビリティにも配慮した商品です。シンプルなデザイン、流行に左右されない商品で、10年後、20年後、子供にも孫にも受け継いでもらうことが出来るようなモノづくりをしています。



この取り組みと、アンナ・オルティス氏の「自然を大切にする。自然のものを有効に活用し循環させる世の中にしていくことが、未来に向けて私たちが出来ることのひとつ。」という想いが融合し生まれた「**super wool by Anna Ortiz**」。

あくまで自然体な彼女とともに、身に着けて心地よく、洗練されたウェアをお届けしていきます。

本資料の取り扱いについて

本資料中の業績予想、見通しおよび事業計画に関する記述等は、本決算発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、記載された将来の業績を保証するものではありません。